

きたうつのみや

年頭の辞



第31代航空学校宇都宮分校長
兼 第28代北宇都宮駐屯地司令

1等陸佐 中園 伸吾

新年おめでとうございます。昨年12月1日付けをもちまして第31代航空学校宇都宮分校長兼、第28代北宇都宮駐屯地司令を拝命いたしました中園です。うつのみや会の皆様、栃木県安全保障研究会の皆様、大空会の皆様をはじめとする地域の方々におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。旧年中は様々な形で駐屯地、所在部隊等に対し多数のご支援・ご協力を賜り、厚く申し上げます。

さて、昨年は北朝鮮のミサイル発射、ロシアのウクライナ侵攻、中国の海洋進出等、日本を取り巻く安全保障環境は一層激しさを増し、予断を許さない状況が続きました。

このような状況の中、防衛省自衛隊では国民の皆様の安全と安心を守るため、防衛体制の構築を推進しており、特にスタンド・オフ防衛能力の向上や領域横断作戦に対応するための改革に加え、部隊の能力向上、練度向上に努めております。

北宇都宮駐屯地においてもこうした動きに対応しつつ、北関東における陸自の航空拠点として即応態勢をとり、日夜、教育訓練、人材育成にまい進しております。

本年も駐屯地全隊員・職員一丸となり、航空安全を確保しつつ皆様方のご期待に添えるよう引き続き、任務完遂にまい進していく所存でありますので、本年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が穏やかな年となり、皆様にとり輝かしい一年になりますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とします。



各会長のご挨拶



きたうつのみや会会長
鳥海 清

新年おめでとうございます。

駐屯地隊員及びきたうつのみや会会員の皆様におかれましては、ご健勝で、輝かしい新年を迎えられたことと心からお喜び申し上げます。

さて、新年早々米国がベネズエラを攻撃し波乱の年明けとなり、ロシアによるウクライナ侵攻は未だ先が見えず、中国による軍事脅威の増大等、我が国を取り巻く安全保障環境は予断を許さない状況となっております。また、年間を通じ各種災害の発生が予想され、自衛隊に対する国民の期待は益々高まっております。

このような中、隊員の皆様には教育訓練に精励され、各種安全に留意し、ご活躍されることを期待しております。

本年は丙午であり、生命のエネルギー・成功・繁栄の要素を表す年であり、皆様の健康でエネルギーッシュな活躍、飛躍を心より願いたいと思います。

新年明けましておめでとうございます。令和八年の幕開け、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

私事で恐縮ですが、私は昭和二十一年二月四日、岩手県黒沢尻町（現北上市）で生まれました。町の中を国道四号線が通っていましたが、私が小学生当時町の中心部以外は、南北とも砂利道で、郊外に出ると道の両側に延々と続くビルの廃墟跡がありました。爆撃された弾薬工場の跡で、水が溜まりまるで無数のプールがあるようでした。お祭りのような行事があると、白い病院服を着た傷痍軍人と言われる人たちが沢山出ていました。下級生の頃は学校給食がなく、弁当を持って来られない子供は昼食時間になると「家で食べて来る」と言って姿を消しました。後で聞いた話ですが、近所の藁などをしまっている小屋でその時間を過ごしていたそうです。

さて、私事はこの辺にして、戦後八十年、日本は平和な国になりました。賃金は上がらないと言いながら、世界でも有数の豊かな国ではあります。

「平和を唱えていれば平和を続けられる」という人がいます。本当にそうならいいのですが、現実はずれます。世界の情勢を見るとそれが如何に違うことが良く分かります。戦いへの備えをおろそかにした国は確実に滅びました。戦前の日本が戦いへの備えを疎かにしたかという点を決してそうではありません。ただ戦争は相手があります。相手の一方的とも言える自己中心的都合により戦争に巻き込まれる場合があります。ウクライナなどはその典型でありましょう。

今年は、今年も引き続き必要な法律・規則が整備され、自衛隊が名実ともに世界に誇れる実力組織になって欲しいものです。

私たち安全保障研究会は少しでもその力になりたいと思っています。

今年も平和な素晴らしい年となりますようにと願って

年の初めのご挨拶といたします。

(完)

明けましておめでとうございます。

北宇都宮駐屯地の皆様をはじめ関係者皆様におかれましては、ご家族とともに清々しい新年を迎えられたことに心よりお慶び申し上げます。

昨年は、ロシアによるウクライナ侵略の継続や北方領土等での活発な軍事活動、中国の軍事力の強化や東シナ海や太平洋等での活発な活動に加えロシアとの軍事活動を含めた連携強化、北朝鮮による弾道ミサイルの増強等、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑なものとなっております。

そのような厳しい安全保障環境下において国民の生命財産を守る最後の盾として日夜訓練・任務に励まれる自衛隊の皆様への頼もしい姿に、いつも誇らしさと安心感、そして尊敬の念を抱いております。

陸自航空科部隊の中核となる航空操縦士を養成し、ヘリコプターによる各種任務と飛行場運営等の重要な任務に従事される北宇都宮駐屯地隊員皆様の日々大変なご苦労に深く感謝いたしますとともに、皆様のご活躍とご安全をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



大空会会長
相良 栄

新司令着任



令和7年12月1日付で陸上自衛隊航空学校宇都宮分校長兼ねて北宇都宮駐屯地司令に中藪1佐が着任した。

学校長廣瀬陸将補立会の下に行われた紹介行事に引き続き着任式が行われ、中藪分校長は宇都宮校職員に対して『和』を要望事項として掲げ訓示とした。

また、8日に行われた臨時駐屯地朝礼において駐屯各部隊に対し『信頼される駐屯地』を駐屯地司令要望事項として示した。

中藪1佐を核心として、北宇都宮駐屯地は新たな一歩を踏み出した。



経歴

平成 4年 10月～	第9飛行隊 (八戸)
平成 9年 3月～	調査学校付 (小平)
	慶應義塾外語研修
平成10年 3月～	第12飛行隊 (北宇都宮)
平成12年 8月～	幹部学校付第46期指揮幕僚課程 (目黒)
平成14年 8月～	航空学校第1教育部航空運用教官 (明野)
平成16年 3月～	陸上幕僚監部人事部補任課 (市ヶ谷)
平成19年 3月～	中央情報隊付 (市ヶ谷)
平成19年 7月～	米国海兵隊指揮幕僚大学
平成20年 8月～	陸上幕僚監部運用支援・情報部運用支援課 (市ヶ谷)
平成23年 4月～	幹部学校教官 (目黒)
平成23年 7月～	東北方面ヘリコプター隊長 (霞目)
平成24年 12月～	陸上自衛隊研究本部 (朝霞)
平成25年 3月～	陸上自衛隊航空学校研究部長 (明野)
平成27年 3月～	陸上自衛隊幹部学校企画室計画班長 (目黒)
平成28年 8月～	陸上自衛隊研究本部 (朝霞)
平成30年 3月～	陸上自衛隊教育訓練本部 (目黒)
平成30年 12月～	北方方面航空隊副隊長 (丘珠)
令和 3年 8月～	教育訓練研究本部主任教官 (目黒)
令和 7年 12月～	現職

古賀将補、新たな旅立ち

令和4年8月から航空学校宇都宮分校長兼ねて北宇都宮駐屯地司令を務められた古賀幹徳1等陸佐の離任式が11月28日に執り行われた。

駐屯地司令として「信頼される駐屯地になろう」を要望事項として駐屯地の隊務運営を力強く牽引した。

古賀1佐は28日付で陸将補に特別昇任、同日付で退職され、第2の人生を歩み始められた。



第220期陸曹航空操縦課程 中期卒業式



航空学校宇都宮校は12月3日、第63-220期陸曹航空操縦課程（中期）の卒業行事を挙行了した。

今回、ヘリコプターパイロットの資格を手にした卒業生は、警察庁預託学生1名を含む15名。部内選抜の難関を突破して令和6年6月に入学、前期教育（学科主体）と中期教育（基本操縦）合わせて1年6か月間の教育を全うし、すべての学科試験と技量査定をクリアして無事この日を迎えた。

駐屯地体育館で行われた卒業式では、中菌分校長から航空き章が卒業生へ授与され、続けて後期教育の指定機種と後期教育地について命令伝達が行われた。

中菌分校長は後期教育に臨む若き航空操縦士たちへのはなむけとして「航空操縦士としての識能を向上せよ」「幹部自衛官としての資質を涵養せよ」と訓示を述べた。

壮行行事では、道路沿いに並んだご家族、教官や在校生からの拍手や万歳三唱の唱和を受け、励ましの声が行き交うなか、卒業生たちが学生長の号令で一斉に帽子を天高く投げ上げ、それぞれの後期教育地へ旅立った。



定年退官 ～長い間ありがとうございました～



管理課 渡邊 1 曹
(10月17日付)



12ヘリ1飛 糸川 曹長
(10月24日付)



12ヘリ1飛 片野 准尉
(12月12日付)



教育課 福岡 准尉
(12月15日付)



【発行】
【編集】

きたうつのみや会
曹友会
修親会
渉外広報班

〒321-0106
栃木県宇都宮市上横田町1360
陸上自衛隊北宇都宮駐屯地 渉外広報班
電話 028(658)2151 内線232